

## 第6回 北浦水質改善計画検討会 議事概要

### 1. 日時

令和5年3月1日(水) 10:00~12:00

### 2. 場所

霞ヶ浦環境科学センター 多目的ホール (WEB併用)

### 3. 出席者

(委員)

筑波大学 名誉教授 福島 武彦 (座長)

茨城大学 農学部 地域総合農学科 教授 黒田 久雄

茨城大学 地球・地域環境共創機構 流域圏環境部門 助教 増永 英治

東京工業大学 環境・社会理工学院 教授 木内 豪

国立研究開発法人 国立環境研究所

生物多様性領域 生態系機能評価研究室 室長 松崎 慎一郎

国立研究開発法人 国立環境研究所

地域環境保全領域 環境管理技術研究室 シニア研究員 富岡 典子

公益財団法人 リバーフロント研究所 主席研究員 中村 圭吾

国立研究開発法人 土木研究所

流域水環境研究グループ 水質チーム 上席研究員 山下 洋正

茨城大学 地球・地域環境共創機構 水圏環境フィールドステーション 教授 加納 光樹

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構

畜産研究部門 動物行動管理研究領域 動物行動管理グループ 任期付研究員 益子 美由希

(欠席：国立研究開発法人 国立環境研究所

気候変動適応センター 気候変動影響観測研究室 室長 西廣 淳)

(行政委員)

茨城県 県民生活環境部 環境対策課 課長 市村 雄一

(代理出席： 課長補佐(技術総括) 小川 邦彦)

独立行政法人 水資源機構 利根川下流総合管理所 所長 小島 幸康

(代理出席： 課長 金山 明広)

国土交通省 関東地方整備局 霞ヶ浦河川事務所 所長 小櫃 基住

(事務局)

国土交通省 関東地方整備局 霞ヶ浦河川事務所

#### 4. 議事

流動等特性把握調査による流動・微細土砂動態分析結果及び施設配置方針案について  
川尻川湖内湖浄化施設の堆積土砂掘削設計

#### 5. 議事要旨

##### ■流動等特性把握調査による流動・微細土砂動態分析結果及び施設配置方針案について

- ・北浦の湖岸付近の調査地点では、局所的な現象を観測している可能性があるため、今後の調査データの蓄積を踏まえて詳細に評価できるとよい。
- ・現状、対象地域は水深が浅く貧酸素化するリスクは小さいが、施設を設置し、微細土砂を捕捉沈降したままにすると、底層 DO の貧酸素化により溶出するリスクが高くなることが懸念される。今後の試算でも、リンの溶出等を含めて検討できるとよい。
- ・航路浚渫とは別に、水質保全を目的とした浚渫により頻度を高めることや浚渫幅を広げること、持ち出す量を増やすことについて検討できるとよい。
- ・対策施設による効果量と施設規模の関係を整理し、妥当な延長を設定すること。
- ・風波を抑制して微細土砂を堆積促進・静置させると、底泥の嫌気化・溶出のリスクが高まる。このため、水が停滞しない工夫が検討できるとよい。
- ・効果の試算において、維持管理などによる長期的な効果の持続など、計算で予測的に示せることは限度があるので、対策施設の整備後のモニタリング等で丁寧に説明していくことが必要である。
- ・長期的な効果の持続確保については、モニタリングしながら、効果を持続させるための検討をすすめていくのも重要である。
- ・植生帯の創出は鳥の生息場として期待できる。抽水植物だけでなく、沈水、浮葉の多様な植物の再生が望ましい。
- ・カンムリカイツブリの生息・繁殖環境の保全については、施工時の配慮が必要である。
- ・魚類の回遊への配慮として、施設の構造を多孔質のものにすることも考えられる。多孔質であれば、反射波の影響も小さくできると考えられる。
- ・巴川と北浦を行き来する水産資源は結構いるため、対策施設を設計する際には回遊についても配慮すること。

##### ■川尻川湖内湖浄化施設の堆積土砂掘削設計

- ・既存施設の掘削や調査で得られた知見は、巴川河口部の流入負荷抑制対策施設に活用できるとよい。
- ・外来植物の再萌芽を防止できるよう植物種の特性を踏まえて、施工時期を検討すること。
- ・魚類の生息場となっている既存植生の株化箇所については、全ての箇所を改良せずに一部状態を残す箇所を設けるなど、実験的に試してみるのがよい。
- ・北浦の対策施設設計と川尻川湖内湖浄化施設の掘削工事について、それぞれの原案が基本的に認められた。

以上



会議は、WEB参加により会場での密集を防ぎ、会場への参加者はマスクの着用、ソーシャルディスタンスの確保、除菌等による感染対策を実施して開催しました。